

アルコニックスグループで非破壊検査を手

非破壊検査のマークテック LiB再生3社と協業 ブラックマス粉体分析

掛けるマークテック（本社＝東京都大田区、西本圭吾社長）は21日、粉体分析技術を活用したリチウムイオン電池（LiB）リサイクルの包括的業務提携を3社と締結したと発表し、粉体物性測定受託を行う子会社のハイテックノライズ、粉体測定で提携するナノシーズ、電池リサイクルなどを手掛けるリーテックリニューアブルエナジーソリューションズと協業する。電池再生の中間原料であるブラックマスの生成と粉体

分析により、日本の電池リサイクル体制構築を図る考えだ。リーテックRESは製品群を分析し再資源化やリユースの中から高付加価値の循環サプライチェーンを築く「リバースサプライチェーンマネジメント」を展開。同提携では高純度ブラックマスの抽出・生成と溶媒抽出分野でニッケルやコバルトといったレアメタルのリサイクルをサポートする。同社とハイテックノライズは各工程で抽出さ

れるブラックマスとレアメタルの成分・組成分析を行う。電池向けのリサイクル原料として求められる性能が評価し、品質の確保に取り組む。

産業技術総合研究所発のベンチャーであるナノシーズが持つ粉体技術の知見も生かす。二酸化炭素（CO₂）排出を抑えたクリーンなプラント技術により、電池リサイクルを実現する。電気自動車市場の拡大でLiB需要の高まりが見込まれる。だが原材料のレアメタルは調達や採掘・精錬でのCO₂排出などが課題だ。欧州電池規則では電池製造でリサイクル原料の使用比率が厳格化されるなど、国際的に高性能なリサイクル原料の活用が要求されている。

株式会社産業新聞社 発行

日刊産業新聞 第21136号（2025年3月24日）